「上手小学校の俵踊り伝承活動の取組」

１　学校名

薩摩川内市立上手小学校

２　学年・人数

小学１年生から６年生（計31人）

３　日時・場所

（１）練習の日時・場所

平成30年７月～10月　　上手地区コミュニティセンター

（２）発表の日時・場所

平成30年８月11日（土）　上手地区夏祭り（おおむら園）

平成30年９月30日（日）　上手小・上手地区大運動会

平成30年10月８日（月）　豊日霎神社奉納祭り

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

（１）名称

上手俵踊り（かみでたわらおどり）

（２）由来

昔は神社やお寺等の落成式や祭典などの催し物としてよく相撲が催された。これを勧進相撲と言い，寄進されたものを土俵上に積んで見物客に披露し，謝礼の意を表した。当時の寄進は大部分が米であったので，化粧まわしを締めた関取が相撲甚句を唄いながら円陣形をとって踊り，土俵祭が済むと飾ってあった米俵をリレー式に土俵外に出した。これを踊りにしたもので，上手校区の楠原地区で踊り継がれている。

（３）構成等

踊りは人数に決まりがなく，数人または数十人が一組となり，木綿の着物にもんぺを履き，足袋を草履履きで向こう鉢巻きに白木綿タオルで，黄色襷を着けた姿で踊る。また，踊り子は長さ50cmあまりの米俵を一俵ずつ用意し，お囃子は赤襷を着けた三味線と太鼓である。

５　保存会や地域との連携の具体

昔は，楠原地区で踊られていたが，踊り手の減少などから途絶えていた。平成８年に「祁答院町ふるさと祭り」で特設ステージで楠原小組合による「俵踊り」を披露することになり，同地区の小中学生を含む25人が夏休みから練習を始めた。以降楠原地区で，踊られてきた。平成17年に「上手俵踊り保存会」を発足させ，上手小校区員を対象として団員を募り，練習・発表するようになった。平成22年に「薩摩国分寺秋の夕べ」での披露が決まり，団員を原則５・６年生全員と希望者にして人数確保に努めてきた。しかし，児童数の減少もあり，平成26年からは，毎年６月に原則４年生以上は全員と３年生以下は希望者を募り，団員を構成するようになった。

学校の教育課程外の活動になるため，楠原地区出身の方を中心に楠原婦人会が指導者となり，地区コミュニティセンターで，夕方の時間帯で練習するよう

にしている。

６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら，踊りを継承していくために，６月下旬には，地区コミ，踊り保存会，ＰＴＡ，学校の代表者で構成される俵・松島節踊り運営委員会を開催している。事務局は学校に置かれ，委員長はＰＴＡ副会長が務めている。毎年同時期に運営委員会を開催し，豊日霎神社での秋の大祭で，俵踊りの奉納ができるように，話し合っている。

今年の団員は小学生だけである。「地域の郷土芸能は地域で守り育てていく」という自覚を促すねらいから，中高生・青壮年を含めて，地域全体から希望者を募ったが，練習時間が合わないなど今後の課題となっている。

子供たちの練習や夏祭りでの発表・神社での奉納の様子などは，学校だよりで保護者や地域住民に積極的に広報している。昨年，踊りで使う俵を地元出身の市来秀昭氏に製作していただき，衣装と道具を全部そろえることができた。

７　取組の様子（練習状況，発表の場等）

８　参加児童生徒・保護者等の感想・意見

【１年生】

おどりのれんしゅうは，むずかしいけどたのしいです。６ねんせいみたいにじょうずになりたいです。

【５年生】

友だちを見なくても音楽をたよりにおどれるようになった。来年は６年生だから，下の学年にも教えられるようにしっかりおどれるようになりたい。

【６年生】

これまですべての練習に参加して，下学年の手本になるようにがんばってきた。これからもみんな俵踊りを続けてほしいと思う。

【保護者】

今年は，140周年の記念事業の一つとして地域のたくさんの人にも見ていただく場をたくさん設けた。夏休みの練習等みんながんばっているので協力体制もしっかり整えていきたい。